第３章　出火原因別火災状況

１　放　　火

○　放火は主な出火原因別の第１位。
○　夜間（18 時から翌５時）は全火災件数に占める放火火災の割合が高い。

抽出条件：経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火＊」、「921 放火の疑い＊」

(1)　火災状況

ここでとりあげる「放火」とは、放火の疑い及び無意識放火を含んだ火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-1-1、最近 10 年間の火災の推移状況をみたものが図 3-1-1 です。

表 3-1-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別 合計	建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	林野	車両	船舶	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28 年	881	384	14	14	47	309	－	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29 年	896	351	7	7	49	288	3	31	－	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30 年	705	276	7	3	46	220	－	17	－	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	－	373	1,937	532	525,967	26	67
2 年	641	270	6	8	38	218	－	21	－	350	995	607	380,516	19	58
3 年	590	213	6	2	33	172	1	12	－	364	1,290	270	260,091	17	27
4 年	601	207	8	8	37	154	2	11	－	381	1,141	570	220,907	24	55
5 年	639	195	11	11	32	141	2	12	－	430	1,775	593	333,537	22	33
6 年	665	218	6	4	45	163	1	10	－	436	1,177	357	267,524	9	44
7 年	**762**	**235**	**4**	**2**	**26**	**203**	**3**	**22**	**－**	**502**	**657**	**338**	**136,563**	**11**	**51**

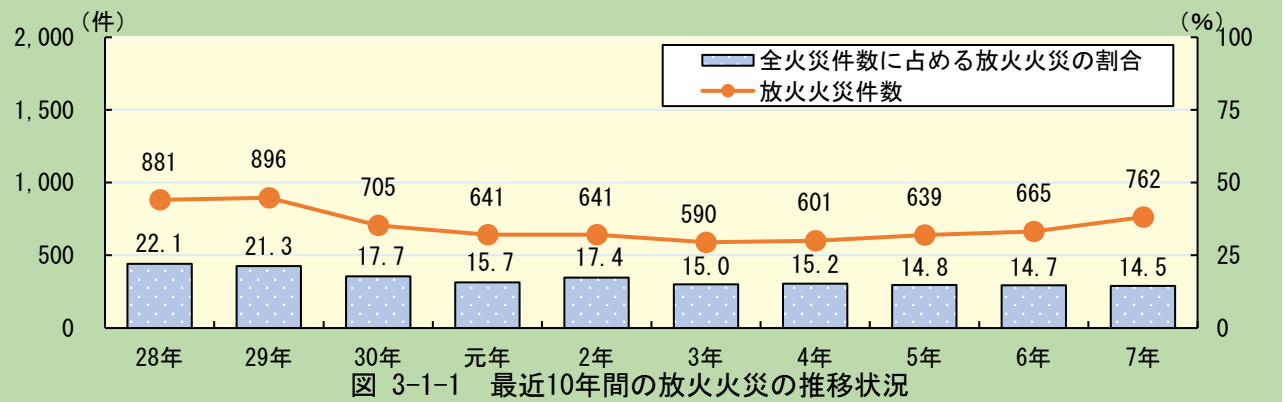


図 3-1-1　最近10年間の放火火災の推移状況

注　全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

⑵　放火火災の傾向

ア　月別と時間別の発生状況

(ｱ)　月別発生状況（令和７年中）

放火と放火以外の火災（以下「一般火災」という。）の月別発生状況をみたものが図 3-1-2 です。

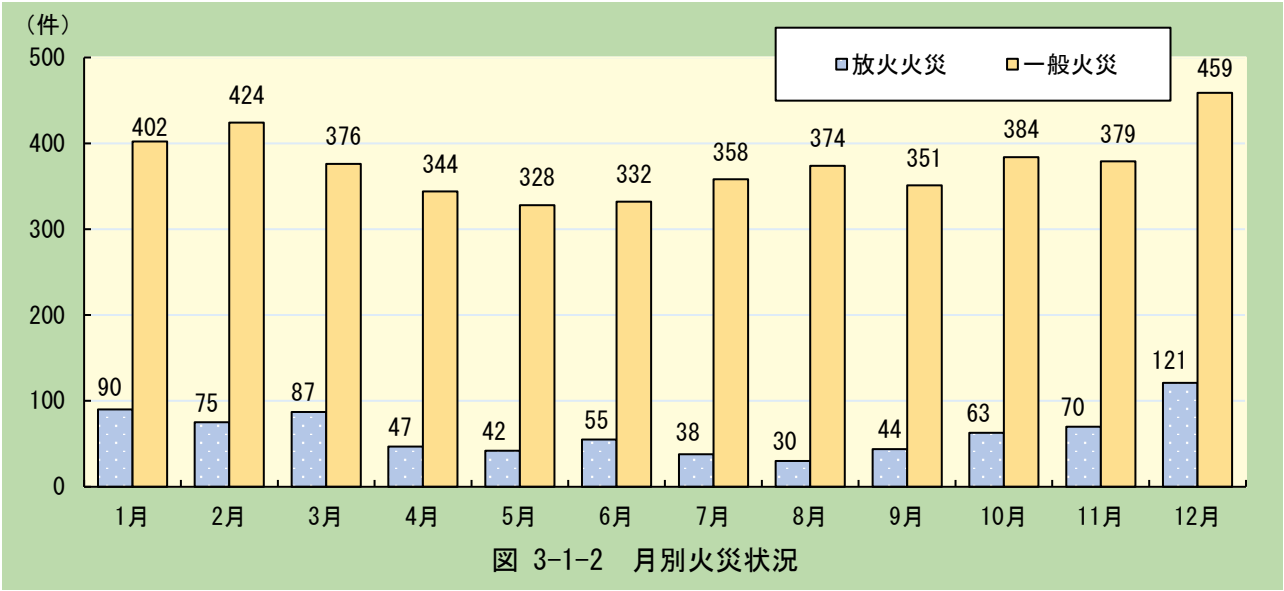


図 3-1-2　月別火災状況

(ｲ)　時間別発生状況（令和７年中）

全火災件数のうち出火時間が不明の 851 件を除いた 4,422 件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図 3-1-3 です。

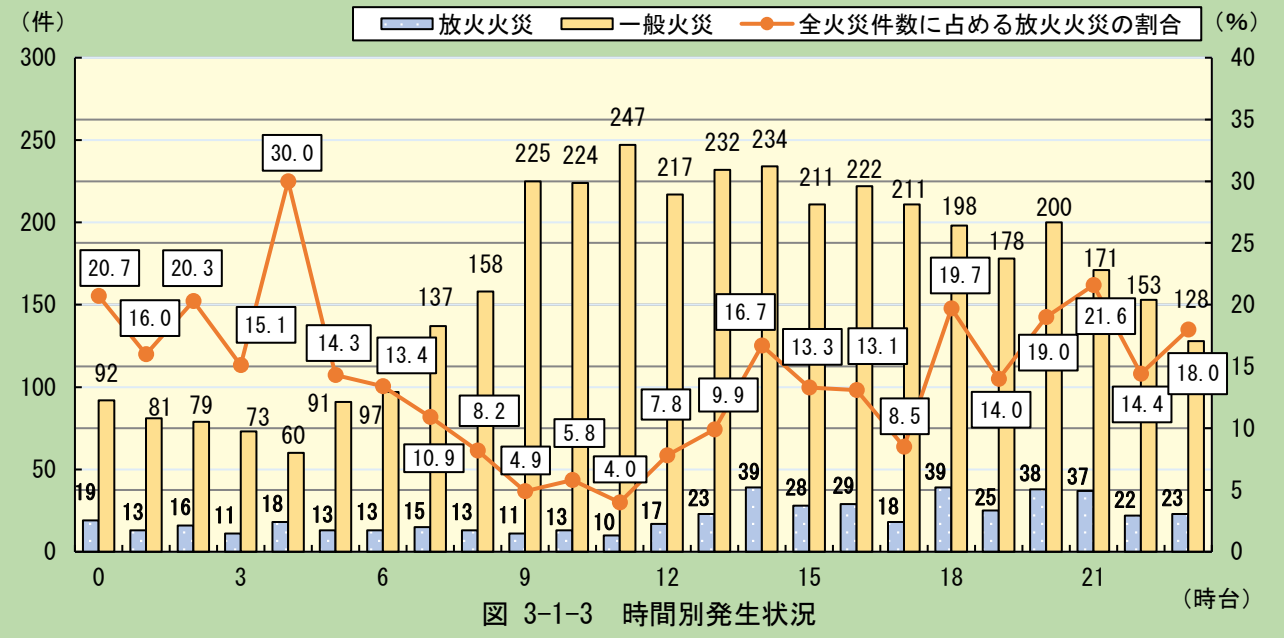


図 3-1-3　時間別発生状況

○　放火火災を月別でみると、12 月に 121 件発生し最多。
○　放火火災を時間別にみると、日中に比べて夜間（18 時から翌５時）の方が高い割合で発生している。

イ　放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表 3-1-2 です。

表 3-1-2　着火物別放火場所（出火箇所）

放火場所（出火箇所）			合計	ごみくず	枯草・落葉・立木・芝草	紙・紙製品	合成樹脂・合成樹脂製品	くず類	繊維類	木質類	床材・壁材	家具等	引火物類	車両関係	その他	不明
合計			762	198	180	129	69	66	43	16	10	9	6	6	20	10
建物関係（主として建物の箇所）	小計		224	44	6	74	27	14	30	2	1	9	1	1	6	9
	共用部分		91	17	3	41	9	7	6	－	－	2	－	－	2	4
	居住関係		52	8	－	14	3	3	15	－	－	4	－	－	1	4
	倉庫・物置		4	2	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
	車庫・駐車場		6	1	－	2	2	－	－	－	－	－	－	1	－	－
	ベランダ・屋上等		12	3	1	3	1	－	3	－	－	－	－	－	1	－
	建物の外周部		9	3	－	1	3	－	－	1	－	1	－	－	－	－
	店舗・客室関係		8	－	－	2	2	1	2	－	－	－	－	－	1	－
	作業関係		2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
	事務室等		3	－	－	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－
	施設管理・休憩室等		10	2	2	1	2	1	－	1	1	－	－	－	－	－
	空家・工事中建物		17	4	－	4	4	2	1	－	－	－	－	－	1	1
	上記以外		10	3	－	4	1	－	2	－	－	－	－	－	－	－
建物関係以外（主として建物以外の箇所）	小計		538	154	174	55	42	52	13	14	9	0	5	5	14	1
	車両		16	－	－	1	6	1	1	－	－	－	－	5	2	－
	その他	公園	189	46	71	28	10	21	1	5	1	－	－	－	6	－
		敷地内	153	46	42	10	16	14	8	8	5	－	2	－	1	1
		道路・高速道路	65	18	17	9	6	8	2	1	1	－	2	－	1	－
		河川敷	51	12	31	－	1	2	1	－	2	－	－	－	2	－
		ごみ捨場	20	17	1	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
		屋外駐車場	13	7	3	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－
		空地・墓地・田畑	11	4	5	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
		工作物等	5	1	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		森林	3	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		屋外物置場	3	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		上記以外	9	3	1	1	－	1	－	－	－	－	1	－	2	－

○　放火された場所の建物関係をみると、「共用部分」で 94 件（42.0%）発生し最多、次いで、居住関係で 54 件（24.1%）発生。

○　着火物別でみると、「ごみくず」及び「枯草・落葉・立木・芝草」で５割近く（49.6%）を占める。

ウ　用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 217 件の火元の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3　火元建物用途別発生状況

火元の用途（合計217件）																	
居住系			事業系											居住・事業系以外			
共同住宅等	住宅	複合用途の住宅部分	事務所	百貨店・物販等	学校	福祉施設等（6項ロ）	ホテル	病院	停車場	福祉施設等（6項ハ）	遊技場	飲食店	倉庫	共用部分	建工事中の物	空家	付属建物等	使用中建物の空家部分
62	28	5	43	8	8	5	2	2	2	1	1	1	1	27	12	4	3	2

(3)　地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて放火火災件数の上位 10 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4　地域別放火火災発生状況

特別区	件数	放火による出火率
足立区	81	1.2
江戸川区	68	1.0
葛飾区	32	0.4
新宿区	29	0.5
練馬区	26	0.6
板橋区	24	0.3
大田区	23	0.4
中央区	20	0.6
荒川区	19	0.7
世田谷区	19	1.0

受託地区	件数	放火による出火率
町田市	47	1.1
八王子市	41	0.7
青梅市	26	2.0
東久留米市	17	0.9
立川市	15	1.3
東村山市	15	2.1
武蔵村山市	14	1.1
昭島市	12	1.0
多摩市	12	0.8
小平市	11	1.4

(4)　連続放火火災の発生状況

表 3-1-5　主な連続放火火災の発生状況

月	管内	主な出火場所	焼損物件	件数
3 月	足立	（足立区）弘道	ごみくず等	6
12 月	尾久	（荒川区）町屋	紙くず等	5

注　本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に５件以上発生した放火火災を集計したものです。

○　放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最も多く発生。
○　特別区では足立区、受託地区では町田市で放火火災が多く発生。

2　たばこ

○　たばこ火災は主な出火原因別の第２位。
○　たばこ火災の件数は 646 件で、昨年より 144 件増加。
○　建物から出火した火災の８割以上を居住系用途が占める。

抽出条件：発火源分類コード　「42101 たばこ」
　　経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

(1)　火災状況

ここでとりあげるたばこによる火災とは、発火源がたばこで、放火及び火遊びによる火災を除いたものです。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-2-1、最近 10 年間の火災の推移状況をみたものが図 3-2-1 です

表 3-2-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別 合計	建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	林野	車両	船舶	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28 年	586	354	4	9	88	253	－	17	－	215	1,698	566	328,463	12	92
29 年	691	370	4	11	99	256	－	10	－	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30 年	651	366	4	15	104	243	－	13	－	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	－	295	1,757	797	536,156	35	77
2 年	508	291	5	10	75	201	－	10	－	207	1,508	717	271,376	13	65
3 年	583	312	7	7	81	217	－	12	－	259	1,901	712	424,642	15	94
4 年	569	324	11	11	94	208	－	7	－	238	2,474	1,000	664,874	15	74
5 年	661	331	8	6	80	237	－	21	－	309	1,991	994	485,248	14	81
6 年	502	289	7	7	74	201	1	10	－	202	1,654	851	346,198	19	45
7 年	**646**	**329**	**7**	**16**	**93**	**213**	**－**	**8**	**－**	**309**	**2,529**	**1,543**	**494,081**	**17**	**104**

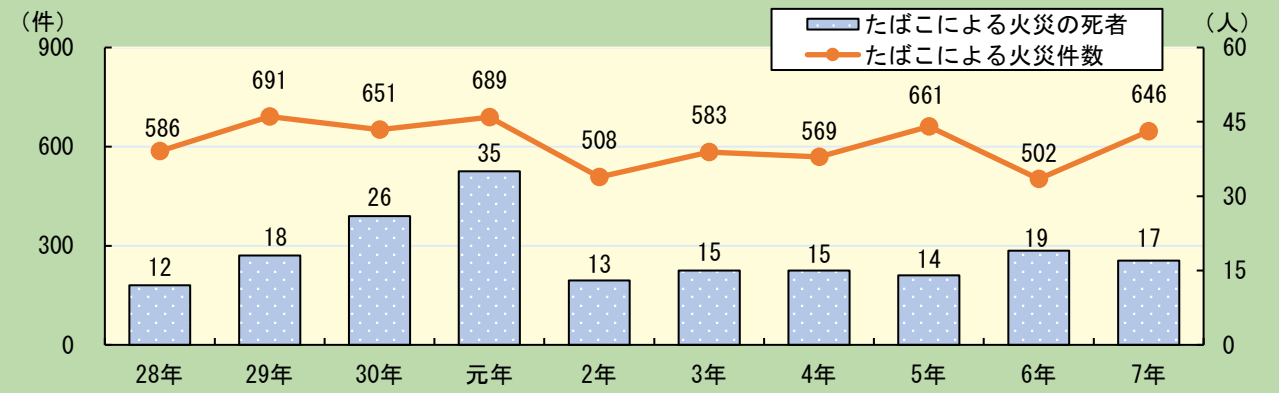


図 3-2-1　最近10年間のたばこによる火災の推移状況

○　たばこによる火災件数は、前年に比べ 144 件増加。
○　たばこによる火災の死者は、前年と比べ２人減少。

⑵　建物からの発生状況

ア　時間別発生状況

たばこによる火災 646 件のうち、建物部分から発生した火災は 289 件で、このうち出火時分が不明の 12 件を除いた 277 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。

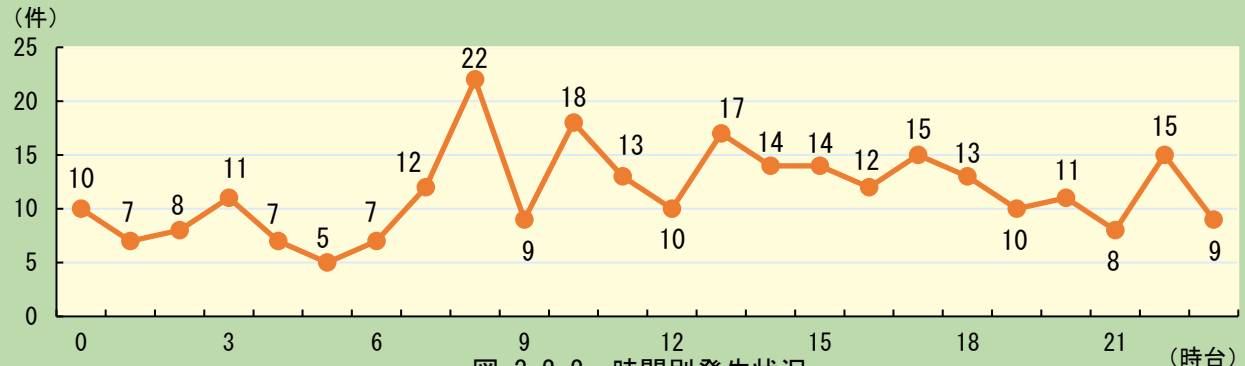


図 3-2-2　時間別発生状況

イ　主な建物用途の出火箇所

建物部分から発生した火災 289 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2　出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合計	建物用途									
		居住系	事業系								居住・事業系以外
			小計	飲食店	ホテル	物品販売店舗	事務所棟	キャバレー等	停車場	その他	
合計	289	234	32	14	5	3	3	2	2	3	23
居室	128	127	－	－	－	－	－	－	－	－	1
ベランダ	60	54	5	2	－	－	2	－	－	1	1
キッチン等	38	33	5	3	－	－	－	2	－	－	－
倉庫・物置・車庫等	14	4	2	－	1	－	－	－	－	1	8
廊下・玄関等	14	4	4	2	1	－	－	－	－	1	6
便所・浴室等	11	10	1	－	1	－	－	－	－	－	－
店舗・客室関係	8	－	8	4	2	2	－	－	－	－	－
施設管理・休憩室関係	5	1	3	3	－	－	－	－	－	－	1
建物の部分・空家等	3	－	1	－	－	－	－	－	1	－	2
事務室等	3	－	3	－	－	1	1	－	1	－	－
機械室・設備関係	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
工事中の建物	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
作業関係の場所	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注　事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ　経過別出火箇所

建物部分から発生した火災の出火箇所を経過別にみたものが表 3-2-3 です。

表 3-2-3　経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所												
		居室	ベランダ	キッチン等	倉庫・物置・車庫等	廊下・玄関等	便所・浴室等	店舗・客室関係	施設管理・休憩室関係	建物の部分・空家等	事務室等	機械室・設備関係	工事中の建物	作業関係の場所
合計	289	128	60	38	14	14	11	8	5	3	3	2	2	1
不適当な処に捨てる	178	50	49	31	12	13	4	5	4	3	2	2	2	1
火源が落下する	104	74	10	7	2	1	7	2	1	－	－	－	－	－
火源が接触する	3	1	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－
不明	4	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

エ　経過別の喫煙時の状況

建物部分から発生した火災 289 件のうち、喫煙時の状況が不明の 49 件を除いた 240 件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表 3-2-4 です。

表 3-2-4　経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況													
		休憩中	外出時	就寝時	飲酒中	出勤時	作業中・執務中	起床時	家事従事中	観覧中・鑑賞中	帰宅準備中	会議中・談話中	飲食中	遊戯中	その他
合計	240	55	49	35	17	14	13	12	4	4	3	2	1	1	30
不適当な処に捨てる	153	32	34	14	9	11	12	6	2	2	3	2	1	1	24
火源が落下する	82	22	13	20	8	3	1	6	2	2	－	－	－	－	5
火源が接触する	3	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
不明	2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

○　経過別出火箇所の状況では「不適当な処に捨てる」が 178 件（61.6%）と、全体の６割以上を占め、その多くは居室及びベランダで発生。

○　喫煙時の状況をみると、「休憩中」が 55 件（22.9%）で最多、２割以上を占める。

オ　出火に至った時間

建物部分から発生した火災 289 件のうち、出火に至った時間が不明の 82 件を除いた 207 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5　出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合計	着火物							
		ごみくず	繊維類	紙・紙製品	床材	紙くず	家具・調度品	合成樹脂・合成樹脂成型品	不明・その他
合計	207	126	55	7	5	4	2	2	6
1時間未満	132	87	30	4	3	3	2	－	3
1時間以上2時間未満	39	22	13	1	－	1	－	1	1
2時間以上3時間未満	11	6	4	－	1	－	－	－	－
3時間以上4時間未満	13	7	3	2	－	－	－	－	1
4時間以上5時間未満	3	2	－	－	－	－	－	1	－
5時間以上6時間未満	1	1	－	－	－	－	－	－	－
6時間以上	8	1	5	－	1	－	－	－	1

○　１時間未満が 132 件（63.8%）で６割以上を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が 87 件で最多。

カ　行為者の状況

(ｱ)　行為者の男女別・年齢

たばこによる火災 646 件のうち、行為者が不明の 343 件を除いた 303 件について行為者を男女別で推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 289 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 247 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。

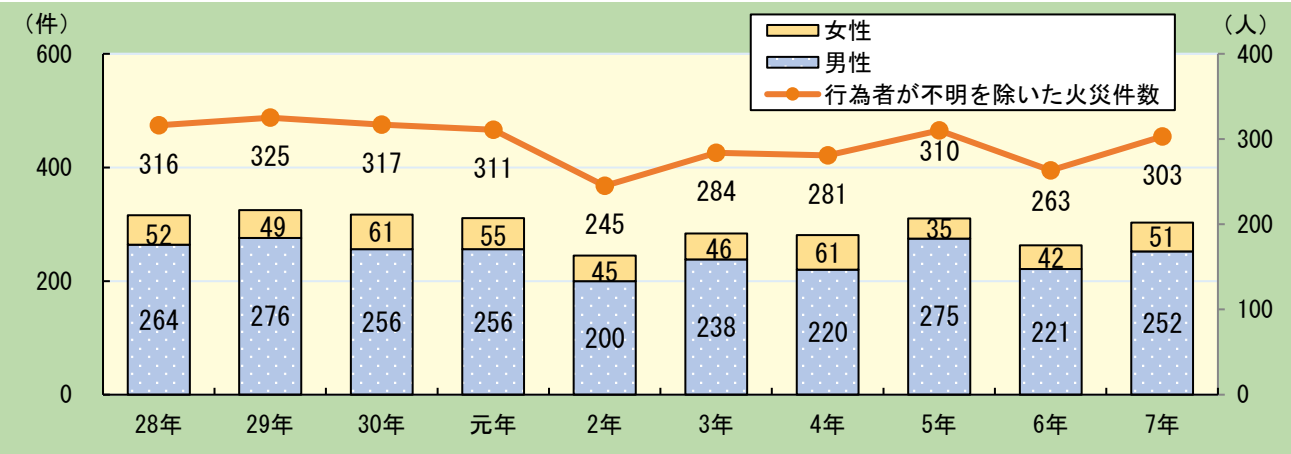


図 3-2-3　たばこによる火災件数の男女別の推移

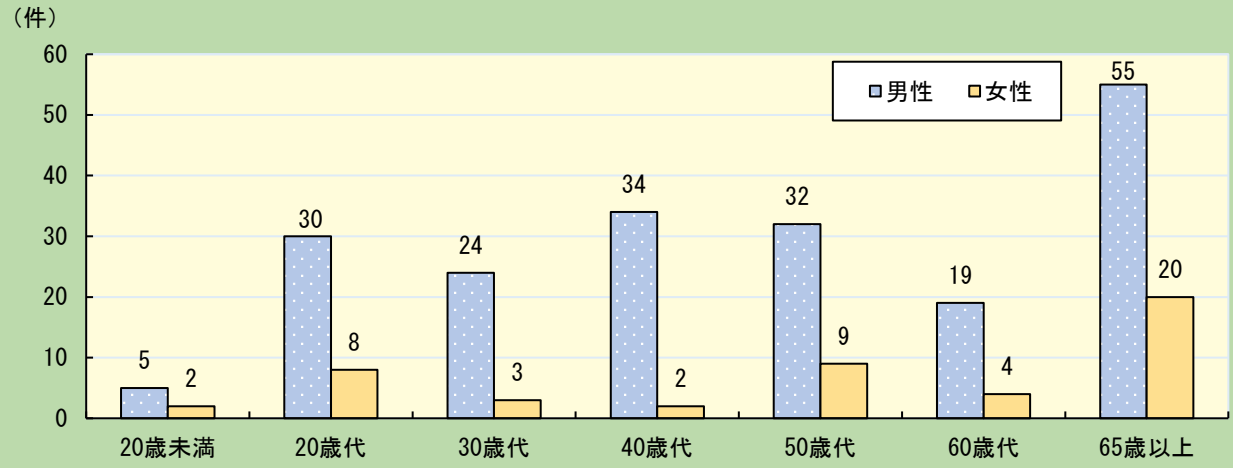


図 3-2-4　行為者の男女別・年齢別発生状況

○　行為者の男女別では男性が 247 件（81.5%）で８割以上を占める。
○　行為者の年齢別では 65 歳以上が 75 件（30.4%）で最多。

(ｲ)　寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

寝たばこの年齢区分別行為時の状況をみたものが表 3-2-6 です。

表 3-2-6　寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行為時の状態				死者	負傷者
		正常	飲酒	その他	不明		
合計	12	6	3	1	2	2	8
20歳未満	－	－	－	－	－	－	－
20歳代	－	－	－	－	－	－	－
30歳代	－	－	－	－	－	－	－
40歳代	3	2	－	－	1	－	4
50歳代	1	－	1	－	－	－	－
60歳代	1	1	－	－	－	－	－
65歳以上	7	3	2	1	1	2	4

○　寝たばこによる火災は、年齢区分別では「65 歳以上」が７件（58.3%）で６割近くを占める。

(3)　建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 357 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7　出火箇所別の着火物（建物以外）

出火箇所		合計	着火物								
			ごみくず	枯草・落葉・立木・芝草	木質物	木切れ・廃材	合成樹脂・合成樹脂製品	繊維類	紙・紙製品	くず類	その他
合計		357	174	106	30	11	9	7	6	5	9
固有地（物）	小計	175	95	37	14	9	8	2	4	3	3
	敷地内	149	77	35	12	9	6	2	3	2	3
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場	17	14	－	1	－	2	－	－	－	－
	屋外駐車場	7	3	2	1	－	－	－	－	1	－
	その他	2	1	－	－	－	－	－	1	－	－
道路・公園等	小計	151	63	69	11	2	－	3	－	2	1
	道路（側溝を含む）	110	54	45	5	2	－	3	－	1	－
	公園	24	4	13	6	－	－	－	－	1	－
	河川敷	5	1	4	－	－	－	－	－	－	－
	空地	5	－	4	－	－	－	－	－	－	1
	マンホール	3	3	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他	4	1	3	－	－	－	－	－	－	－
建物の部分	小計	19	9	－	5	－	1	－	1	－	3
	建物外周部	8	3	－	－	－	1	－	1	－	3
	屋上	6	6	－	－	－	－	－	－	－	－
	ベランダ	4	－	－	4	－	－	－	－	－	－
	屋上工作物	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－
車両	小計	9	6	－	－	－	－	2	1	－	－
	助手席	3	3	－	－	－	－	－	－	－	－
	荷台	2	1	－	－	－	－	1	－	－	－
	原動機付自転車	2	1	－	－	－	－	－	1	－	－
	その他	2	1	－	－	－	－	1	－	－	－
工作物		3	1	－	－	－	－	－	－	－	2

注　ここでいう「建物の部分」とは、建物周囲の屋外部分から発生している火災をいいます。

○　建物以外から出火した火災は「固有地（物）」が 175 件（49.0%）で５割近くを占める。
○　着火物は「ごみくず」が 174 件（48.7%）で最多、５割近くを占める。

3　火 遊 び

○　火災件数は 54 件で、前年より 17 件増加。
○　その他火災が 39 件（72.2%）で全体の 7 割以上を占める。

抽出条件：経過分類コード　「931 火遊び」

(1)　火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が 14 歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に出火したものは、含んでいません。

ア　年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-3-1 です。

表 3-3-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別 合計	建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	車両	林野	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28 年	33	14	－	－	2	12	－	－	19	20	12	3,048	－	1
29 年	49	19	－	－	5	14	－	－	30	15	5	2,707	－	3
30 年	31	12	－	－	1	11	－	－	19	10	－	1,593	－	2
元年	21	11	－	－	3	8	－	－	10	16	3	3,610	－	－
2 年	20	11	－	－	3	8	－	－	9	64	45	10,032	－	1
3 年	26	6	－	－	－	6	－	－	20	－	－	42	－	2
4 年	20	12	－	－	2	10	－	1	7	－	54	2,925	－	6
5 年	38	15	－	－	2	13	－	－	23	7	2	8,785	－	4
6 年	37	16	－	－	2	14	－	－	21	15	3	9,556	－	6
7 年	**54**	**15**	**－**	**3**	**－**	**12**	**－**	**－**	**39**	**130**	**33**	**29,646**	**－**	**11**

イ　月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図 3-3-1、時間別の火災状況（出火時分不明の 6 件除く）についてみたものが図 3-3-2 です。

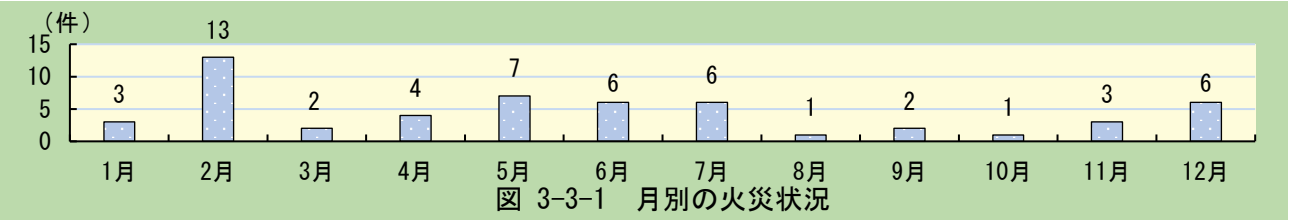


図 3-3-1　月別の火災状況

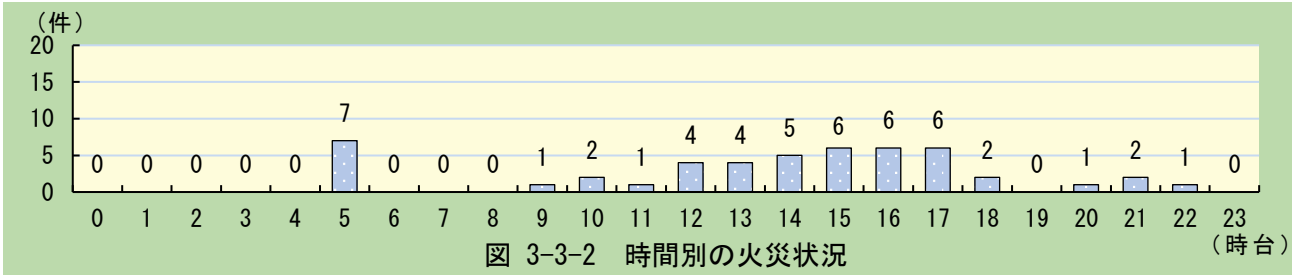


図 3-3-2　時間別の火災状況

○　月別では、２月が 13 件（24.1%）で最多、次いで５月が７件（13.0%）発生。
○　時間別では、48 件（出火時間不明の６件除く）のうち５時台が７件（14.6%）と最多、12 時台から 17 時台にかけて火災が多発。

⑵　出火箇所

発火源別に出火箇所をみたものが表 3-3-2 です。

表 3-3-2　発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所 建物関係（主として建物の箇所） 居室	キッチン・ダイニング	便所	その他	建物関係以外（主として建物以外の箇所） 公園	河川敷	敷地内	道路	その他
合計	54	3	2	2	6	21	8	7	2	3
ライター	29	3	2	1	2	9	8	3	－	1
マッチ	15	－	－	1	－	10	－	3	1	－
ガステーブル	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－
火のついた紙	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1
花火	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－
不明	7	－	－	－	2	2	－	1	1	1

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近５年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図 3-3-3 です。

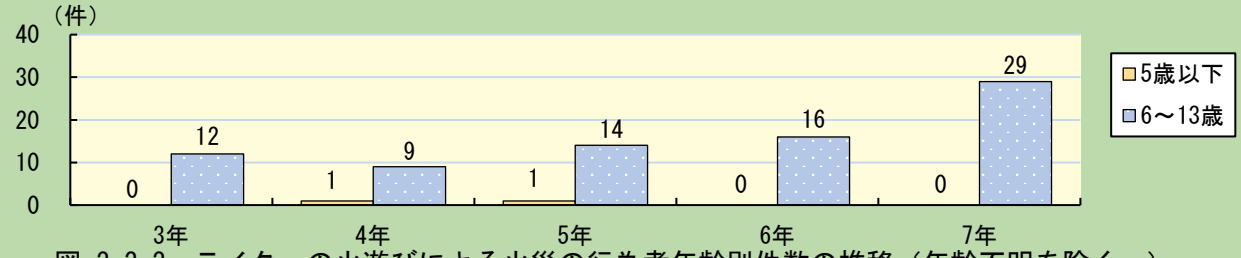


図 3-3-3　ライターの火遊びによる火災の行為者年齢別件数の推移（年齢不明を除く。）

○　発火源別では、ライターが 29 件（53.7%）で最多。
○　ライターの火遊びは増加傾向にあり、前年より 13 件増加。

⑶　子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成 23 年９月 27 日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについては PSC マークの表示が義務付けられています。

4　ライター

○　ライターによる火災の７割以上を建物火災が占める。
○　昨年に引き続き死者が２名発生しており、最近 10 年間でみると最多。

抽出条件：①発火源分類コード　「42301 ライター」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1)　火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア　年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-4-1 です。

表 3-4-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	合計	火災種別									損害状況				
		建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
28 年	40	27	－	1	2	24	－	11	－	2	60	7	19,017	－	32
29 年	28	21	－	1	2	18	－	5	－	2	34	21	5,968	－	15
30 年	25	19	－	－	2	17	－	4	－	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	－	1	3	15	－	7	－	3	91	24	59,481	－	14
2 年	22	18	－	－	3	15	－	4	－	－	26	21	13,419	－	13
3 年	33	21	1	－	3	17	－	9	1	2	202	57	11,873	－	18
4 年	35	27	－	1	3	23	－	6	－	2	124	92	27,247	－	16
5 年	23	17	－	－	5	12	－	6	－	－	135	29	32,873	－	13
6 年	26	19	－	－	5	14	－	4	－	3	91	62	48,322	2	15
7 年	**34**	**25**	**－**	**－**	**5**	**20**	**－**	**3**	**－**	**6**	**84**	**54**	**39,862**	**2**	**18**

イ　月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図 3-4-1 です。

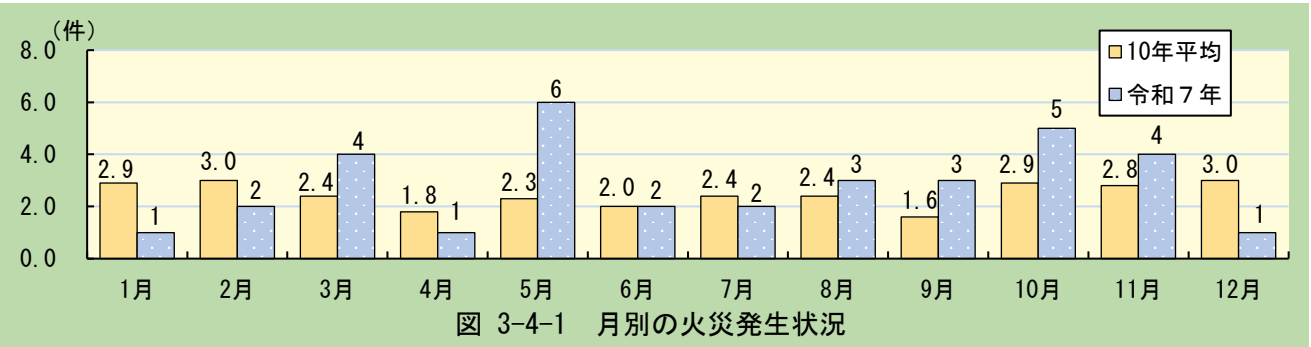


図 3-4-1　月別の火災発生状況

○　月別では、５月が６件（17.6%）で最多。
○　最近 10 年間の月別平均件数では、２月及び 12 月が 3.0 件と最多。

⑵　経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分でみたものが表 3-4-2 です。

表 3-4-2　経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別				
			本来の用途以外の用に用いる	引火する	接炎する	火源が接触する	誤ってスイッチが入る（入れる）
合計		34	10	9	6	5	4
建物	小計	25	8	8	4	4	1
	建物（自宅）	17	6	4	4	3	－
	建物（事業用）	7	1	4	－	1	1
	建物（その他）	1	1	－	－	－	－
建物以外	車両からの出火	3	－	－	－	－	3
	屋外で出火	6	2	1	2	1	－

○　ライターによる火災は建物で 25 件（73.5%）発生。そのうち、自宅から出火しているのは 17 件（68.0%）で７割近くを占める。
○　経過別では、「本来の用途以外の用に用いる」が 10 件（29.4%）で３割近くを占める。次いで「引火する」が９件（26.5%）発生。

5　ロウソク

○　火災件数が 40 件で前年と比べて 1 件増加。
○　負傷者が 19 名発生しており、前年と比べて 5 名増加。

抽出条件:①発火源分類コード　「41701 ロウソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、「41705 走馬灯」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1)　火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図 3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図 3-5-2 です。

表 3-5-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別										損害状況				
	合計	建物					車両	船舶	林野	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
28 年	48	47	2	3	11	31	－	－	－	1	473	180	85,770	1	24
29 年	46	46	2	4	10	30	－	－	－	－	422	160	64,061	－	25
30 年	41	40	2	3	11	24	－	－	－	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	－	－	－	1	611	149	58,296	2	17
2 年	31	31	1	2	10	18	－	－	－	－	406	179	89,762	－	18
3 年	40	38	－	4	8	26	－	－	－	2	304	142	75,158	1	28
4 年	36	35	1	4	5	25	－	－	－	1	465	270	124,323	4	17
5 年	38	38	4	2	5	27	－	－	－	－	647	222	125,081	4	28
6 年	39	36	1	－	11	24	－	－	－	3	151	65	36,371	1	14
7 年	**40**	**40**	**2**	**1**	**6**	**31**	－	－	－	－	**182**	**149**	**67,751**	－	**19**

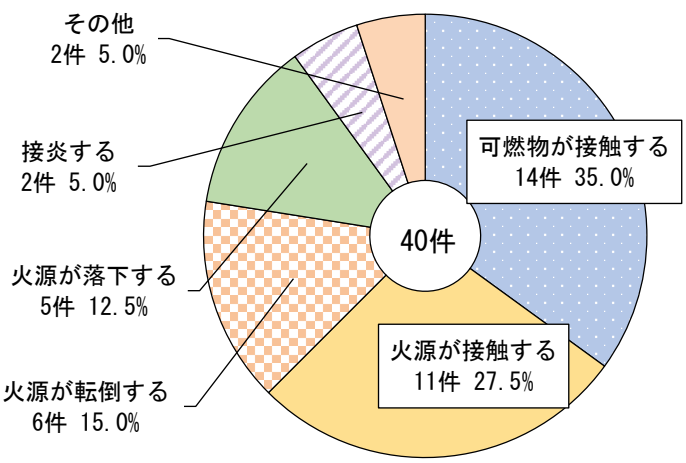


図 3-5-1　ロウソクによる火災の経過

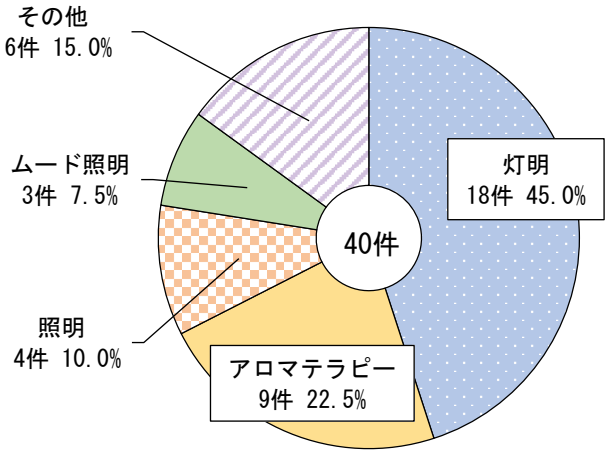


図 3-5-2　ロウソクの使用目的

○　火災の経過をみると、可燃物が接触して出火したものが 14 件（35.0%）で最多。
○　ロウソクの使用目的は、灯明が 18 件で 4 割以上を占める。

６　電気設備機器

○　電気設備機器火災における建物火災は 2,003 件で、最近 10 年間で最多。
○　リチウムイオン電池関連火災の件数は 10 年前と比べて７倍以上に増加。

抽出条件：①発火源分類コード　大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1)　火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-6-1 です。

表 3-6-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	電気設備機器火災件数	全火災に対する割合（%）	火災種別 建物 小計	建物 全焼	建物 半焼	建物 部分焼	建物 ぼや	車両	船舶	航空機	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28 年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	1	－	－	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29 年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	－	－	－	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30 年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	－	－	－	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	－	－	－	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159
2 年	3,693	1,163	31.5	1,057	13	15	102	927	－	－	－	106	2,767	1,646	917,825	14	159
3 年	3,935	1,399	35.6	1,274	16	31	111	1,116	－	－	－	125	4,878	2,760	1,576,641	18	182
4 年	3,952	1,467	37.1	1,298	28	17	116	1,137	－	－	－	169	7,415	1,764	1,614,097	19	206
5 年	4,329	1,512	34.9	1,372	17	20	131	1,204	－	－	－	140	5,087	2,491	1,872,227	15	198
6 年	4,517	1,781	39.4	1,618	23	24	133	1,438	－	1	－	162	13,132	2,104	2,390,667	20	254
7 年	**5,273**	**2,184**	**41.4**	**2,003**	**20**	**29**	**135**	**1,819**	**－**	**1**	**2**	**178**	**7,415**	**2,880**	**2,202,648**	**24**	**281**

注　治外法権火災及び管外からの延焼火災は計上していません

○　令和７年中の電気設備機器火災件数は 2,184 件、割合は 41.4％で最近 10 年間で最多。
○　火災種別をみると、建物火災件数が 2,003 件で、前年と比べて 385 件増加。
○　電気設備機器火災の死者は 24 人発生、傷者は 281 人発生しており、いずれも最近 10 年間で最多。

(2)　主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 3-6-2 です。

表 3-6-2　電気設備機器による発火源と経過（その１）

発火源		合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	過多の電流（含電圧）が流れる	過熱する	半断線により発熱する	地絡する	可燃物が接触する	考え違いにより使用を誤る	絶縁劣化により発熱する	スパークする	構造が不完全である	放置する・忘れる	火源が接触する	誤ってスイッチが入る（入れる）	火花が飛ぶ	放射を受けて発火する	機械が故障を起こす	可燃物が落下する	漏電する	引火する	誤結線する	スパークにより引火する	本来の用途以外の用に用いる	その他	不明
合計		2,184	745	345	183	122	111	89	80	66	59	54	38	33	33	25	25	17	17	14	12	8	6	6	5	5	19	67
電熱器	小計	341	54	32	12	1	40	43	6	36	7	－	7	1	11	22	22	11	5	5	8	－	2	－	3	－	5	8
	電気ストーブ	52	3	－	－	－	－	3	－	26	－	－	－	－	－	6	3	－	3	－	5	－	－	－	－	－	3	－
	ヘアードライヤ	46	21	3	－	－	－	19	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1
	電気トースタ	39	3	－	－	－	23	4	－	1	3	－	－	－	1	1	1	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－
	電気ポット	19	7	3	1	－	－	6	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電気オーブン	16	－	6	1	－	3	1	1	－	－	－	－	－	1	－	1	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－
	投込湯沸器	15	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	11	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電気クッキングヒータ	15	－	－	－	－	3	－	－	1	1	－	－	－	4	1	5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	温風機	13	4	2	3	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	電気溶接器	11	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電気フライヤ	11	1	－	－	－	4	－	－	－	1	－	1	－	1	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	1
	電気なべ	9	1	6	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電気こんろ	9	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	1	－	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他の電熱器	86	13	12	6	1	7	6	5	6	1	－	3	1	2	3	4	1	1	1	2	－	2	－	2	－	2	5
電気機器	小計	1,045	500	49	78	37	69	26	12	30	47	40	17	32	22	3	3	6	12	5	4	－	3	3	2	5	9	31
	充電式電池	254	217	2	5	6	1	－	－	－	1	1	－	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	7
	電子レンジ	116	3	2	2	－	59	－	－	－	36	2	－	2	－	－	1	－	－	3	－	－	－	－	－	4	－	2
	直流電源装置（ＡＣアダプタ含む）	54	38	－	8	2	－	－	2	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	コンピュータ（本体）	41	31	－	1	1	－	2	1	－	－	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	電磁調理器	41	1	－	1	－	5	2	1	－	4	2	－	－	22	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	2
	携帯電話機	41	35	－	2	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	ＬＥＤ	36	10	4	7	8	－	2	1	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	蛍光灯	30	13	－	1	1	－	1	－	－	－	11	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1
	冷暖房機	26	4	7	2	1	－	1	2	－	－	5	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1
	充電式カミソリ	25	2	－	15	1	－	－	－	－	－	－	－	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	掃除機	23	11	3	2	1	1	－	1	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	食器洗器	19	－	9	4	－	－	－	－	4	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
	カーボンヒータ	16	－	－	－	－	－	2	－	11	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	1	－	－	－	－	－	－	－
	電気美容器具	14	10	1	1	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ジューサ	14	11	－	1	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ハロゲンランプ	13	1	－	－	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－	1	－	5	－	1	－	－	－	－	－	－	－
	扇風機	13	7	3	－	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	スピーカ	13	7	1	2	－	1	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	コンピュータ（モニター）	11	6	－	－	－	－	1	1	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	冷蔵ショーケース	11	2	4	4	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	シーリングライト	11	2	1	1	2	－	－	－	－	1	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	太陽光発電装置	11	3	1	2	3	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	サーキュレータ	10	5	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	電気冷蔵庫	10	5	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	白熱電球	8	1	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	2	－	1	－	－	－	－	－	1	－
	洗濯機	7	4	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	洗浄機	7	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－
	その他の電気機器	170	68	8	15	8	2	14	1	9	5	6	1	2	－	2	1	6	3	1	－	－	2	2	2	－	5	7

表 3-6-2　電気設備機器による発火源と経過（その２）

発火源		合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	過多の電流（含電圧）が流れる	過熱する	半断線により発熱する	地絡する	可燃物が接触する	考え違いにより使用を誤る	絶縁劣化により発熱する	スパークする	構造が不完全である	放置する・忘れる	火源が接触する	誤ってスイッチが入る（入れる）	火花が飛ぶ	放射を受けて発火する	機械が故障を起こす	可燃物が落下する	漏電する	引火する	誤結線する	スパークにより引火する	本来の用途以外の用に用いる	その他	不明
電気装置等	小計	104	31	24	14	8	2	2	3	－	－	11	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	6
	分電盤	26	6	11	4	1	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	制御盤	26	7	6	6	2	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	2
	充電器	11	4	2	1	1	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	三相モータ	10	5	2	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1
	コンデンサー（低圧）	8	1	1	－	－	－	－	－	－	－	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	配電用変圧器	7	2	－	1	1	－	－	1	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	トランス	4	－	－	1	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他の電気装置	12	6	2	1	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
配線等	小計	300	111	64	11	20	－	9	52	－	3	2	6	－	－	－	－	－	－	4	－	－	1	2	－	－	－	15
	コード	97	62	3	1	11	－	7	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	屋内線	53	13	15	3	－	－	1	11	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6
	配電線（高圧）	27	2	3	－	－	－	－	20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	配線用遮断器	21	1	16	1	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	漏電遮断器	11	－	10	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	引込線（低圧）	10	9	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	屋外線	10	6	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	電磁接触器	9	1	4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	－	－
	タンブラースイッチ	8	－	3	－	2	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	継電器	7	1	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	2
	屋側線	5	4	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	き電線（高圧）	4	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	変電設備内配線	4	1	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	電磁開閉器	3	2	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	押しボタンスイッチ	3	1	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電流制限器	3	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	引込線（高圧）	3	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	タイムスイッチ	3	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	配電線（低圧）	3	1	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	調光器	3	－	－	2	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ガス開閉器	3	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他の配線等	10	2	2	1	2	－	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
配線器具等	小計	382	49	176	68	56	－	9	7	－	2	1	7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7
	差し込みプラグ	130	14	60	28	23	－	2	1	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	コンセント	89	8	61	6	7	－	－	3	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	テーブルタップ	66	12	19	17	6	－	5	2	－	－	1	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	マルチタップ	44	4	22	5	12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	コードコネクタ	32	3	10	10	4	－	1	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	アダプタ	11	6	2	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	電灯付家具、コンセント付家具	8	2	1	1	2	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ケーブルヘッド	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	積算電力計	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他の電気関係		12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	8	－	－	－	－	4	－

ア　発火源の分類別火災状況

(ｱ) 電熱器

○　電熱器関係の火災は 341 件（15.6%）で、前年と比べて 78 件増加。
○　電熱器の中で火災件数が最も多いのは、電気ストーブで 52 件（15.2%）発生。
○　電気ストーブの経過をみると、「可燃物が接触する」が 26 件（50.0%）発生。

(ｲ) 電気機器

○　電気機器関係の火災件数は 1,045 件（47.8%）で、前年と比べて 219 件増加。
○　電気機器関係火災の上位３位をみると、充電式電池が 254 件（24.3%）で最多、次いで電子レンジが 116 件（11.1%）、直流電源装置が 54 件（5.2%）。
○　充電式電池の経過をみると、「電線が短絡する」が 217 件（85.4%）と最多。

(ｳ) 電気装置

○　電気装置関係の火災件数は 104 件（4.8%）で、前年と比べて 15 件増加。
○　電気装置関係の火災は、制御盤及び分電盤が 26 件（25.0%）で最多。
○　制御盤の経過をみると、「電線が短絡する」が７件（26.9%）で次いで「金属の接触部が過熱する」及び「トラッキング」が各６件（23.1%）発生。
○　分電盤の経過をみると、「金属の接触部が過熱する」が 11 件（42.3%）で次いで「電線が短絡する」が６件（23.1%）、「トラッキング」が４件（15.4%）発生。

(ｴ) 配線等・配線器具等

○　配線等・配線器具等の火災は合わせて 682 件(31.2%)で、前年と比べて 82 件増加。そのうち差込みプラグは 130 件（19.1%）発生し、前年と比べ 41 件増加。コードが 97 件（14.2%）発生し、前年と比べ４件減少。
○　差込みプラグの経過をみると、「金属の接触部が過熱する」が 60 件（46.2%）で最多、コードは「電線が短絡する」が 62 件（63.9%）で最多。

イ　電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 1,045 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3　主な電気機器の出火部位（上位９位）

発火源	合計	充電部	差し込みプラグ	その他の電気器具部分	庫内部	基板部	電源コード（器具付きコード）	器具内配線	ヒータ部	安定器	その他・不明
合計	1,045	341	149	112	101	90	73	46	33	29	71
充電式電池	254	222	2	6	－	11	1	6	－	－	6
電子レンジ	116	－	2	4	100	3	1	1	－	－	5
直流電源装置（ＡＣアダプタ含	54	－	45	1	－	2	2	－	－	－	4
コンピュータ（本体）	41	18	13	1	－	1	7	1	－	－	－
電磁調理器	41	－	3	23	－	1	3	－	8	－	3
携帯電話機	41	39	－	1	－	－	－	－	－	－	1
ＬＥＤ	36	4	3	3	－	13	3	7	－	－	3
蛍光灯	30	－	－	3	－	1	－	1	－	25	－
冷暖房機	26	－	4	3	－	6	3	6	－	－	4
充電式カミソリ	25	9	－	1	－	14	－	1	－	－	－
掃除機	23	7	7	1	－	2	4	－	－	－	2
食器洗器	19	－	11	1	－	1	－	－	5	－	1
カーボンヒータ	16	－	－	1	－	－	2	－	13	－	－
電気美容器具	14	3	5	1	－	1	3	－	－	－	1
ジューサー	14	－	10	1	－	－	3	－	－	－	－
扇風機	13	6	2	－	－	1	－	1	－	－	3
ハロゲンランプ	13	－	－	11	－	－	－	－	－	－	2
スピーカー	13	8	1	－	－	3	－	1	－	－	－
その他の電気機器	256	25	41	50	1	30	41	21	7	4	36

注１　その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示します。
　２　その他・不明とは上位９位に該当しない部位を含みます。

(ｱ) 充電部

○　電気機器の充電部から出火した火災は、341 件（32.6%）で、前年と比べて 106 件増加。
○　発火源別に充電部からの出火をみると、充電式電池の充電部からの火災が 222 件（65.1%）と最多。

(ｲ) 差込みプラグ・電源コード

○　差込みプラグから出火した火災は、149 件（14.3%）発生。
○　電源コードから出火した火災は、73 件（7.0%）発生。

(ｳ) その他の電気器具部分

○　その他の電気器具部分から出火した火災は、112 件（10.7%）発生。
○　発火源をみると、電磁調理器が 23 件（20.5%）発生し最多、次いでハロゲンランプが 11 件（9.8%）発生。

(ｴ) 庫内部

○　庫内部から出火した火災は 101 件（9.7%）発生し、電子レンジで 100 件発生。

(ｵ) 基板部

○　基板部から出火した火災は 90 件(8.6%)発生し、充電式カミソリの 14 件（15.6%）が最多。次いでＬＥＤで 13 件（14.4%）発生。

⑶　火元の用途別火災発生状況

電気設備機器の火災を火元の用途別にみたものが表 3-6-4 です。

表 3-6-4　火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分			28 年	29 年	30 年	元年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	前年比
合計			1,052	1,152	1,205	1,283	1,163	1,399	1,467	1,512	1,781	**2,184**	403
用途	建物	政令用途対象物	488	537	549	660	565	652	690	726	873	**1,084**	211
		(%)	46.4	46.6	45.6	51.4	48.6	46.6	47.0	48.0	49.0	**49.6**	0.6
		住宅・共同住宅等	426	479	487	474	487	612	604	637	739	**913**	174
		(%)	40.5	41.6	40.4	36.9	41.9	43.7	41.2	42.1	41.5	**41.8**	0.3
	その他（建物以外）		138	136	169	149	111	135	173	149	169	**187**	18
	(%)		13.1	11.8	14.0	11.6	9.5	9.6	11.8	9.9	9.5	**8.6**	▼0.9

注１　ここでいう、政令用途対象物とは、建物のうち住宅・共同住宅以外の用途部分及び共用部分等をいいます。
２　ここでいう、住宅・共同住宅等とは、消防法施行令別表第一に定める５項ロ（共同住宅等）及び複合用途の居住の用に供する部分をいいます。

○　政令用途対象物をみると、令和７年は 1,084 件（49.6%）になり、電気設備機器火災全体の５割近くを占める。

⑷　出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-1 です。

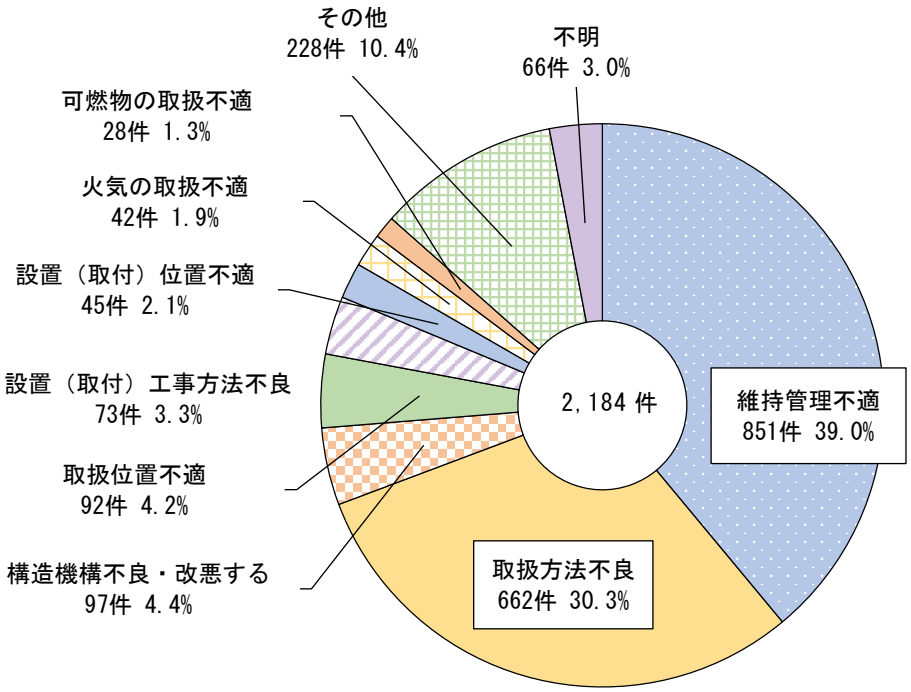


図 3-6-1　出火要因別発生状況

○　出火要因別発生状況をみると、「維持管理不適」が 851 件と最多、次いで「取扱方法不良」が 662 件で、この２項目で７割近くを占める。

⑸　その他の火災状況

ア　電気ストーブ等からの火災

令和７年の「電気ストーブ等からの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-2 です。

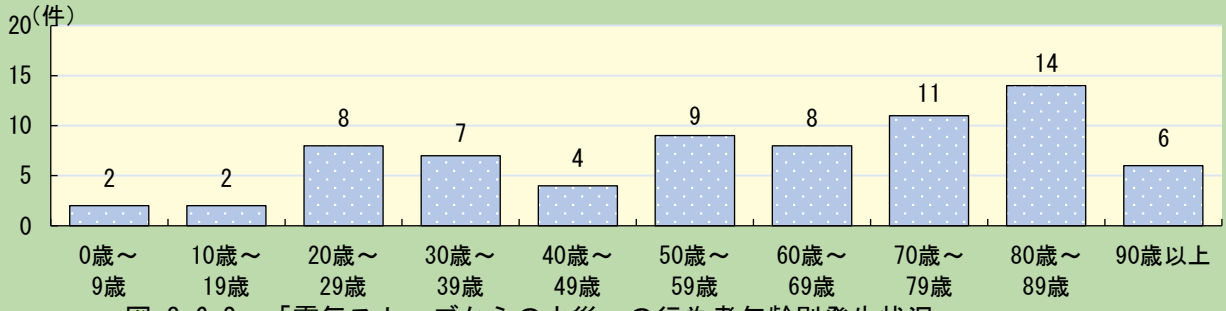


図 3-6-2　「電気ストーブからの火災」の行為者年齢別発生状況

注１　「電気ストーブ等からの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ及び温風機の４項目を合わせたものをいいます。

２　行為者年齢が不明の 14 人を除いています。

○　電気ストーブ等からの火災の行為者年齢別発生状況をみると、「80 歳～89 歳」が 14 人（19.7%）で最多。

イ　リチウムイオン電池関連火災の発生状況

(ｱ) 火災状況

最近 10 年間のリチウムイオン電池関連火災状況をみたものが表 3-6-5、リチウムイオン電池関連火災の月別状況をみたものが図 3-6-3 です。

表 3-6-5　リチウムイオン電池関連火災状況（最近 10 年間）

年別	火災件数 合計	建物 小計	建物 全焼	建物 半焼	建物 部分焼	建物 ぼや	車両	船舶	航空機	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	死者	負傷者
28 年	55	48	－	－	6	42	2	－	－	5	77	40	－	22
29 年	56	47	－	－	5	42	7	－	－	2	32	41	－	4
30 年	81	69	－	1	4	64	6	－	－	6	74	40	－	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	－	－	5	400	257	－	12
2 年	103	92	－	2	10	80	5	－	－	6	190	165	－	22
3 年	140	124	5	5	16	98	5	－	－	11	860	289	－	30
4 年	150	124	4	－	17	103	10	－	－	16	513	109	1	42
5 年	167	151	1	1	23	126	2	－	－	14	811	119	－	14
6 年	243	204	1	2	17	184	10	1	－	28	325	81	－	40
7 年	**397**	**343**	**4**	**7**	**26**	**306**	**16**	**－**	**2**	**36**	**1,313**	**349**	**－**	**78**

注１　リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池等を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く。）から出火した火災をいう。
　２　リチウムイオン電池関連火災には、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災及びごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除く。

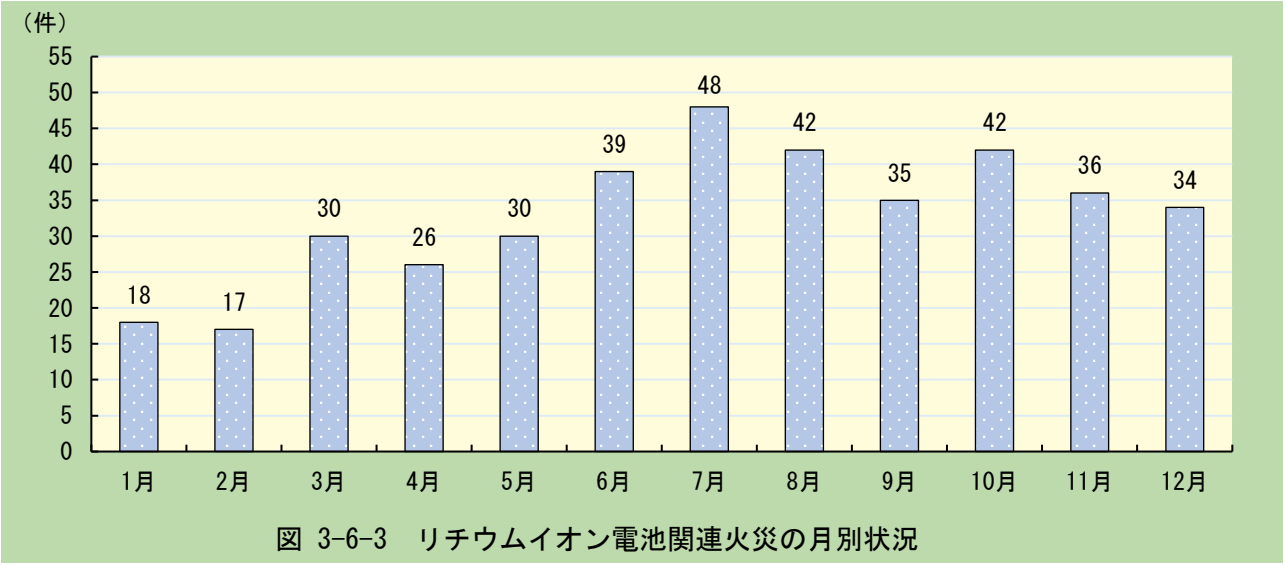


図 3-6-3　リチウムイオン電池関連火災の月別状況

○　令和７年中のリチウムイオン電池関連火災の件数は 397 件で、前年比で約 1.6 倍増加（＋154 件）し、過去最多件数を更新している。
○　令和７年中に死者は発生していないものの、焼損床面積、焼損表面積及び負傷者数はいずれも過去最多となっている。
○　リチウムイオン電池関連火災の月別の火災状況では、７月が 48 件（12.1％）で最も多く発生し、次いで８月及び 10 月が 42 件（10.6％）発生している。

(ｲ)　出火時の状況別の火災状況

令和７年中の出火要因別火災状況をみたものが表 3-6-6、製品の入手時期及びＰＳＥマークの有無をみたものが表 3-6-7、出火前の使用状況をみたものがそれぞれ表 3-6-8、表 3-6-9 です。

表 3-6-6　出火要因別火災状況

出火要因	合計	モバイルバッテリ	携帯電話機	電動アシスト付自転車	充電式カミソリ	ワイヤレスイヤホン	コードレス掃除機	ポータブル電源	電動工具	タブレット	加熱式たばこ	ＬＥＤライト	携帯型扇風機	ノートパソコン	ポータブルスピーカ	カメラ	その他	不明
合計	397	136	45	23	22	18	17	16	11	10	9	8	7	7	6	6	48	8
いつも通り使用していたが出火	172	76	10	6	3	11	5	10	1	4	2	5	5	1	3	2	28	－
外部衝撃（落下・外力等）	44	10	13	3	－	－	－	1	2	1	4	2	1	3	－	2	1	1
分解・廃棄	35	3	18	－	－	－	1	－	－	3	1	－	－	－	－	1	8	－
製品の欠陥（リコール含む）	35	5	1	4	11	4	2	－	－	－	2	－	－	1	2	－	3	－
使用方法誤り	13	2	2	2	－	－	4	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－
充電方法誤り	12	1	－	－	7	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	2	－
その他	42	22	－	4	－	3	3	2	－	2	－	1	1	1	－	－	2	1
不明	44	17	1	4	1	－	1	3	4	－	－	－	－	1	1	1	4	6

注　製品のその他の内訳には、電気美容器具、映写機、看板用バッテリ、サーキュレータ、ドローン用バッテリなどを含みます。

表 3-6-7　出火要因別製品の入手時期及びＰＳＥマークの有無

出火要因	合計	製品の入手時期								PSEマークの有無		
		1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	6年未満	6年以上	不明	あり	なし	不明
合計	397	57	74	61	34	16	20	25	110	134	55	208
いつも通り使用していたが出火	172	26	34	33	22	7	13	13	24	62	24	86
外部衝撃（落下・外力等）	44	5	10	3	3	－	1	－	22	12	7	25
分解・廃棄	35	2	1	4	2	4	3	3	16	12	4	19
製品の欠陥（リコール含む）	35	5	12	9	1	1	1	4	2	19	6	10
使用方法誤り	13	4	2	3	1	－	1	－	2	4	2	7
充電方法誤り	12	3	3	2	1	－	－	1	2	5	1	6
その他	42	12	8	4	1	3	1	3	10	12	10	20
不明	44	－	4	3	3	1	－	1	32	8	1	35

表 3-6-8　出火要因別出火前の製品異常及び出火時の充電状況

出火要因	合計	出火前の製品異常						出火時の充電状況				
		特になし	ふくらみ	充電出来ない	発熱	その他	不明	充電中	非充電中	使用中	その他	不明
合計	397	273	17	8	20	31	48	183	151	28	7	28
いつも通り使用していたが出火	172	138	3	3	9	11	8	110	44	13	1	4
外部衝撃（落下・外力等）	44	30	1	－	1	4	8	5	30	5	1	3
分解・廃棄	35	13	3	1	4	4	10	－	30	－	5	－
製品の欠陥（リコール含む）	35	31	－	－	1	2	1	21	10	4	－	－
使用方法誤り	13	11	－	－	1	1	－	9	3	1	－	－
充電方法誤り	12	9	－	1	－	1	1	11	－	－	－	1
その他	42	17	9	－	4	8	4	17	18	5	－	2
不明	44	24	1	3	－	－	16	10	16	－	－	18

表 3-6-9　出火要因別出火直前の使用状況

出火要因	合計	出火直前の使用状況						
		毎日使っている	1週間以内に使った	3か月以内に使った	1年以内に使った	1年以上前に使った	初めて使った	不明
合計	397	150	93	25	4	5	7	113
いつも通り使用していたが出火	172	59	57	15	2	2	4	33
外部衝撃（落下・外力等）	44	16	4	1	1	1	－	21
分解・廃棄	35	11	4	1	－	2	－	17
製品の欠陥（リコール含む）	35	22	8	1	－	－	－	4
使用方法誤り	13	8	3	－	－	－	1	1
充電方法誤り	12	7	2	1	1	－	－	1
その他	42	19	8	4	－	－	2	9
不明	44	8	7	2	－	－	－	27

○　出火要因別火災状況の製品をみるとモバイルバッテリが 136 件（34.3%）で最多。
○　製品の入手時期をみると、「２年未満」が 74 件（18.6%）で最多。
○　出火前の製品異常をみると、「特になし」が 273 件（68.8%）で最多。
○　出火直前の使用状況をみると、「毎日使っている」が 150 件（37.8%）で最多。

ウ　トラッキング

最近５年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表 3-6-10 です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイトが生じて火災に至ります。

表 3-6-10　年別発生状況（最近５年間）

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数（電気火災に占める割合％）		差込みプラグ差し刃間のトラッキング火災件数（トラッキング火災に占める割合％）	
3 年	1,399	122	(8.7)	39	(32.0)
4 年	1,467	127	(8.7)	36	(28.3)
5 年	1,512	106	(7.0)	34	(32.1)
6 年	1,781	149	(8.4)	34	(22.8)
7 年	**2,184**	**183**	**(8.4)**	**48**	**(26.2)**

注　差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器（発火源が配線器具の差込みプラグを除く）のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

○　トラッキング現象による火災は、183 件（前年比 34 件増加）発生し、電気設備機器火災の 8.4％を占める。

○　トラッキング火災件数のうち、差込みプラグ差し刃間で発生した火災件数は 48 件（26.2％）発生。

7　ガス設備機器

○　全火災件数に対する割合が、令和７年では 10.9％で前年と比べて 2.1 ポイント減少。
○　ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は 95.1％を占める。

抽出条件：①発火源分類コード　中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード　「0 非該当」

(1)　火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-7-1 です。

表 3-7-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	ガス設備機器火災件数	全火災に対する割合（％）	火災種別								損害状況				
				建物					車両	船舶	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
28 年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	－	－	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29 年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	－	－	11	2,119	824	719,562	7	194
30 年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	－	－	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	－	1	12	1,403	830	326,554	3	202
2 年	3,693	571	15.5	560	2	8	69	481	－	－	11	952	673	270,102	5	218
3 年	3,935	542	13.8	528	2	7	46	473	1	－	13	835	553	218,162	5	163
4 年	3,952	535	13.5	524	4	4	53	463	－	1	10	1,051	469	242,642	5	198
5 年	4,329	614	14.2	605	5	6	69	525	－	－	9	1,519	998	417,093	6	222
6 年	4,517	588	13.0	573	3	6	59	505	－	－	15	1,171	851	334,567	5	196
7 年	**5,273**	**577**	**10.9**	**563**	**5**	**4**	**65**	**489**	**－**	**－**	**14**	**1,130**	**1,048**	**334,294**	**9**	**217**

注　全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

○　令和７年中の火災件数は 577 件で前年と比べて 11 件減少。
○　建物火災の焼損程度をみると、令和７年中の部分焼以上の延焼火災は 74 件で前年と比べて６件増加。

⑵　主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過をみたものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2　ガス設備機器の発火源と経過

発火源		合計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	引火する	接炎する	過熱する	誤ってスイッチが入る（入れる）	考え違いにより使用を誤る	火のついた油等が吸い込まれる	本来の用途以外の用に用いる	可燃物が沸騰する・あふれ出る	伝導過熱する	火花が飛ぶ	その他	不明
合計		577	202	80	60	60	46	33	27	10	9	8	6	5	23	8
厨房関連	小計	549	201	75	48	59	46	33	27	10	9	8	6	－	20	7
	ガステーブル	263	63	56	22	32	17	31	26	－	2	5	2	－	5	2
	大型ガスこんろ	107	65	4	8	9	9	－	－	－	2	1	3	－	3	3
	ガスこんろ	54	30	5	3	6	2	－	1	－	3	1	－	－	2	1
	大型レンジ	30	22	3	－	－	3	－	－	－	－	－	1	－	1	－
	簡易型ガスこんろ	24	7	4	6	4	1	－	－	－	1	－	－	－	1	－
	ガスレンジ	13	10	－	－	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	－
	無煙ガスロースタ	12	1	－	－	－	1	－	－	10	－	－	－	－	－	－
	ガス鉄板焼器	6	－	2	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	コーヒー焙煎器	6	－	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	ガスロースタ（無煙を除く）	6	－	－	－	5	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ガスハースグリラ	6	2	－	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	フライヤ	6	1	－	2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	その他の厨房関連	16	－	1	6	－	2	1	－	－	1	－	－	－	4	1
家事・季節関連	小計	14	－	5	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	ガスストーブ	3	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	ガスファンヒータ	3	－	－	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	簡易型ガスストーブ	3	－	1	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他の家事・季節関連	5	－	1	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
工業関連	小計	14	1	－	4	1	－	－	－	－	－	－	－	5	2	1
	ガス切断器	8	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	5	2	－
	ガスバーナ	4	1	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	ガスハンドトーチ	2	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

○　厨房関連の火災は 549 件発生し、ガス設備機器の 95.1％を占める。

○　厨房関連の経過は、「放置する・忘れる」の 201 件（36.6％）が最多、４割近くを占める。

○　家事・季節関連の火災は 14 件（2.4％）発生し、そのうち「ガスストーブ」等の暖房器具関係が９件（64.3％）発生。

○　工業関連の火災は 14 件（2.4％）発生し、そのうち８件（57.1％）がガス切断器に起因して発生。

⑶　出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

また、主な出火原因でガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況をみたものが表 3-7-4 です。

表 3-7-3　ガス設備機器の出火要因

発火源		合計	取扱方法不良	火気の取扱不適	維持管理不適	可燃物の取扱不適	取扱位置不適	設置（取付）位置不適	その他	不明
合計		577	191	166	81	73	35	6	17	8
厨房関連	小計	549	181	163	77	71	30	6	14	7
	ガステーブル	263	105	52	29	54	12	4	5	2
	大型ガスこんろ	107	16	57	13	4	8	1	5	3
	ガスこんろ	54	22	21	2	8	－	－	－	1
	大型レンジ	30	11	13	4	－	1	－	1	－
	簡易型ガスこんろ	24	8	7	－	2	6	－	1	－
	ガスレンジ	13	4	8	1	－	－	－	－	－
	無煙ガスロースタ	12	3	－	8	－	－	1	－	－
	ガス鉄板焼器	6	1	－	4	－	－	－	1	－
	コーヒー焙煎器	6	1	－	5	－	－	－	－	－
	ガスロースタ（無煙を除く）	6	1	1	4	－	－	－	－	－
	ガスハースグリラ	6	3	1	2	－	－	－	－	－
	フライヤ	6	1	2	2	－	1	－	－	－
	その他の厨房関連	16	5	1	3	3	2	－	1	1
家事・季節関連	小計	14	4	－	4	2	3	－	1	－
	ガスストーブ	3	－	－	－	－	2	－	1	－
	ガスファンヒータ	3	1	－	1	1	－	－	－	－
	簡易型ガスストーブ	3	1	－	1	1	－	－	－	－
	その他の家事・季節関連	5	2	－	2	－	1	－	－	－
工業関連	小計	14	6	3	－	－	2	－	2	1
	ガス切断器	8	2	2	－	－	2	－	2	－
	ガスバーナ	4	3	－	－	－	－	－	－	1
	ガスハンドトーチ	2	1	1	－	－	－	－	－	－

表 3-7-4　主な火災原因分類におけるガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況

部位別		合計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	接炎する	誤ってスイッチが入る（入れる）	引火する	考え違いにより使用を誤る	過熱する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	本来の用途以外の用に用いる	その他・不明
合計		354	110	65	42	32	31	27	21	7	6	13
こんろ部	小計	305	97	64	41	15	25	27	11	7	6	12
	動植物油	70	52	－	－	1	－	－	10	7	－	－
	着衣	35	－	34	－	－	－	－	－	－	1	－
	砂糖，食料	34	33	－	1	－	－	－	－	－	－	－
	台所用品	34	4	11	2	4	－	8	－	－	－	5
	電気製品	23	－	－	1	3	－	17	－	－	2	－
	繊維製品，しゅろほうき	19	2	7	9	1	－	－	－	－	－	－
	ＬＰＧ（エアゾール）	13	－	－	－	－	13	－	－	－	－	－
	ごみくず	13	－	5	5	2	－	1	－	－	－	－
	油かす	9	2	－	5	－	－	－	1	－	1	－
	その他・不明	55	4	7	18	4	12	1	－	－	2	7
グリル部	小計	41	13	1	1	16	－	－	10	－	－	－
	油かす	21	8	－	1	5	－	－	7	－	－	－
	砂糖，食料	8	5	－	－	－	－	－	3	－	－	－
	台所用品	3	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－
	その他の紙・紙製品	3	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－
	その他・不明	6	－	1	－	5	－	－	－	－	－	－
その他の部分	小計	8	－	－	－	1	6	－	－	－	－	1
	都市ガス	4	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－
	その他・不明	4	－	－	－	1	2	－	－	－	－	1

○　出火要因をみると、厨房関連では「取扱方法不良」が 181 件で最多、全体の 33.0％を占め、次いで「火気の取扱不適」が 163 件（29.7％）、「維持管理不適」が 77 件（14.0％）発生。

○　出火要因を主な出火原因分類におけるガステーブル等で分類してみると、354 件発生しており、ガス設備機器に起因する火災の 61.4％を占める。

　また、ガステーブル等における部位別は「こんろ部」が 305 件(86.2％)を占め、そのうち着火物は「動植物油」が 70 件（23.0％）発生。

○　ガステーブル等における部位別の「グリル部」をみると、41 件（11.6％）で、そのうち着火物は「油かす」が 21 件（51.2％）、次いで「砂糖，食料」が８件（19.5％）発生。

⑷　ガス漏れ火災

ア　年別火災状況

最近 10 年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表 3-7-5、最近 20 年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図 3-7-1 です。

表 3-7-5　ガス漏れ火災年別状況

ガス種別	年別	合計	火災種別 建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
都市ガス	28 年	6	6	－	－	－	6	－	－	－	8	－	1
	29 年	5	5	－	－	－	5	－	－	－	29	－	－
	30 年	9	8	－	－	－	8	1	－	－	73	－	1
	元年	10	10	－	－	1	9	－	30	25	6, 543	－	4
	2 年	9	9	－	－	1	8	－	2	1	424	－	2
	3 年	7	6	－	－	－	6	1	－	－	195	－	2
	4 年	12	11	－	－	2	9	1	40	5	16, 696	1	2
	5 年	9	9	－	1	1	7	－	20	1	11, 596	－	1
	6 年	7	7	－	－	－	7	－	－	－	169	－	－
	7 年	**10**	**10**	**－**	**－**	**2**	**8**	**－**	**46**	**87**	**15, 866**	**1**	**2**
プロパンガス	28 年	2	－	－	－	－	－	2	－	－	1	－	5
	29 年	1	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
	30 年	4	－	－	－	－	－	4	－	－	11	－	1
	元年	2	1	－	－	－	1	1	－	－	2, 387	－	－
	2 年	1	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
	3 年	3	2	－	－	－	2	1	－	－	6, 250	－	2
	4 年	1	1	－	－	－	1	－	－	－	6	－	－
	5 年	4	3	－	－	－	3	1	－	－	97	－	4
	6 年	4	4	－	1	－	3	－	100	180	16, 095	－	2
	7 年	**5**	**3**	**－**	**－**	**－**	**3**	**2**	**－**	**－**	**348**	**－**	**2**

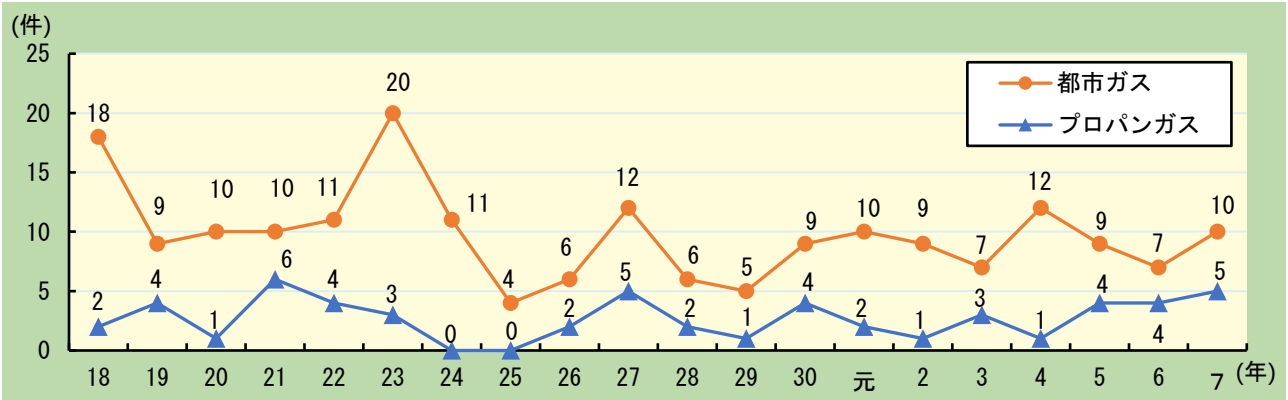


図 3-7-1　最近20年間のガス漏れ火災件数の推移

イ　要因別の状況

令和７年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表 3-7-6 です。

表 3-7-6　ガス漏れ要因の状況

ガス種別	発火源	ガス漏れ器具	合計	差込み不良	ゴム管に高温物	屋内配管の腐食	ゴム管老化き裂	点火失敗（反復）	配管工事の損傷	立ち消え（細火）	その他・不明
合計			15	2	1	1	1	1	1	1	7
都市ガス	小計		10	1	1	1	－	1	1	－	5
	ガステーブル	本体	6	1	－	－	－	1	1	－	3
	大型ガスこんろ	本体	2	－	1	1	－	－	－	－	－
	給湯器	本体	1	－	－	－	－	－	－	－	1
	連続魚焼機器	本体	1	－	－	－	－	－	－	－	1
プロパンガス	小計		5	1	－	－	1	－	－	1	2
	大型ガスこんろ	本体	1	－	－	－	1	－	－	－	－
	ガスバーナ	本体	1	1	－	－	－	－	－	－	－
	ガス乾燥機	本体	1	－	－	－	－	－	－	－	1
	フライヤ	本体	1	－	－	－	－	－	－	－	1
	回転かまど	本体	1	－	－	－	－	－	－	1	－

○　ガス漏れ火災は 15 件で、前年（11 件）より４件増加。

8　石油設備機器

○　石油設備機器による火災件数は 27 件発生し、前年より 10 件減少。
○　石油設備機器による火災で発生した死者は 1 人、負傷者は 6 人で、負傷者は最近 10 年間で最少。

抽出条件：①発火源分類コード　中分類コード「23 油を燃料とする道具装置」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
③車両から出火した火災の区分コード　「0 非該当」

(1)　火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア　年別火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-8-1 です。

表 3-8-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	石油設備機器火災件数	全火災件数に対する割合（%）	火災種別 建物 小計	建物 全焼	建物 半焼	建物 部分焼	建物 ぼや	林野	船舶	航空機	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28 年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	－	－	1	3	338	51	961,883	－	36
29 年	4,204	40	1.0	36	4	－	11	21	－	－	－	4	864	282	92,131	－	33
30 年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	－	－	－	5	660	119	112,714	1	21
元 年	4,085	34	0.8	31	4	1	5	21	－	－	－	3	729	144	110,040	3	13
2 年	3,693	27	0.7	18	1	1	4	12	－	－	－	9	211	133	46,567	－	21
3 年	3,935	31	0.8	23	5	2	3	13	－	－	－	8	737	496	123,840	4	12
4 年	3,952	29	0.7	25	1	4	2	18	－	－	－	4	177	119	97,642	－	13
5 年	4,329	42	1.0	32	2	2	4	24	1	1	－	8	667	57	117,964	1	27
6 年	4,517	37	0.8	28	5	1	4	18	－	－	1	8	820	378	12,835,341	5	40
7 年	**5,273**	**27**	**0.5**	**22**	**2**	**－**	**2**	**18**	**－**	**－**	**－**	**5**	**314**	**4**	**30,099**	**1**	**6**

注　全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

○　火災種別をみると、建物火災が 22 件（81.5%）で８割以上を占める。
○　延焼拡大率（建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合）は 18.2%で、前年と比べて 17.5 ポイント減少。

イ　機器別火災状況

石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。

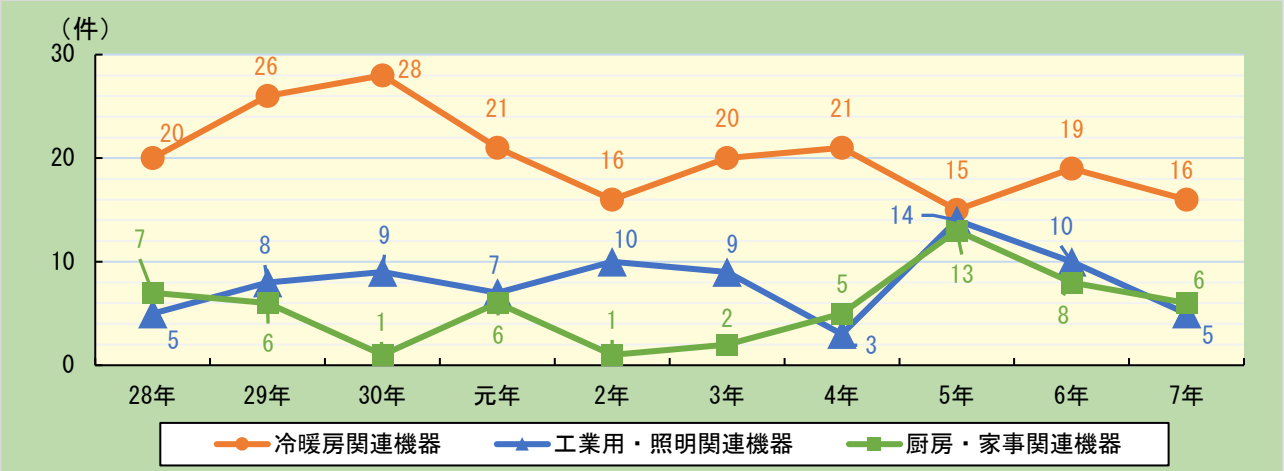


図 3-8-1　石油設備機器の機器別火災発生状況（最近10年間）

注　放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ　燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。

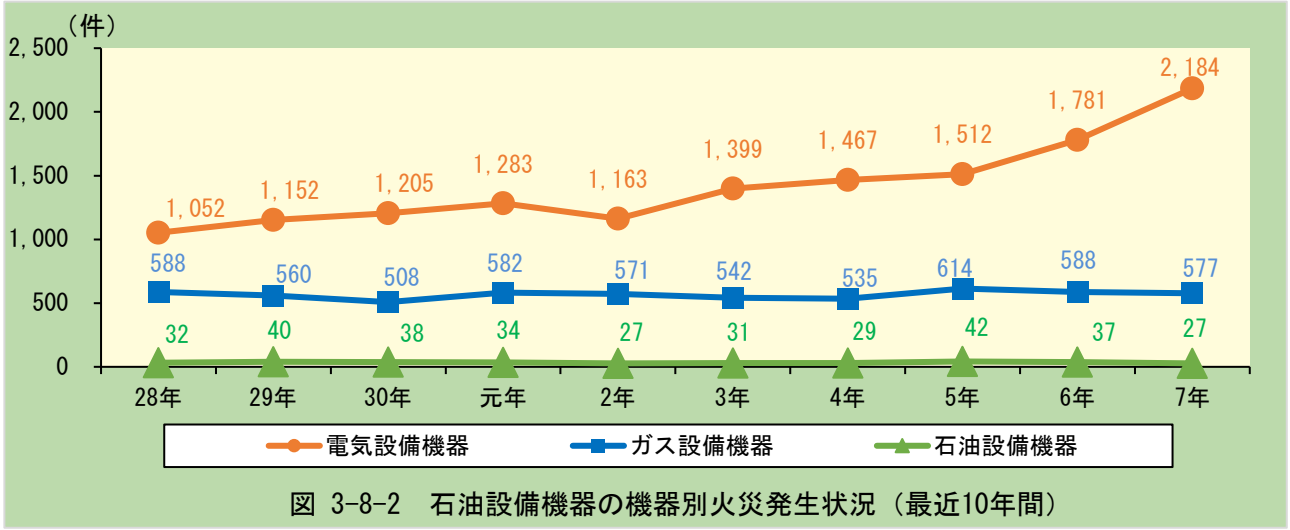


図 3-8-2　石油設備機器の機器別火災発生状況（最近10年間）

注　放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

○　石油設備機器の機器別火災発生状況をみると、冷暖房関連機器が 16 件（59.3%）を占める。次いで、厨房・家事関連機器が 6 件（22.2%）、工業用・照明関連機器 5 件（18.5%）を占める。

○　燃料別にみた設備機器の火災件数をみると、電気設備機器は 403 件増加、ガス設備機器は 11 件減少、石油設備機器は 10 件減少。

⑵　主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図 3-8-3 です。

表 3-8-2　石油設備機器別の出火に至った経過

発火源		合計	可燃物を置く	引火する	可燃物が接触する	火花が飛ぶ	火源が接触する	接炎する	使用中給油する	スパークにより引火する	トラッキング	発射火を受けて発する	伝導過熱する	可燃物が転倒する	火源が転倒する	考え違いにより使用を誤る	燃料を誤る	吹き返す
合計		27	5	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
冷暖房機器関連	小計	16	5	2	2	－	－	－	2	－	－	－	－	1	1	1	1	1
	石油ストーブ	11	5	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1	－	1
	石油ファンヒータ	3	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－
	代用ストーブ	2	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
厨房・家事機器関連	小計	6	－	1	－	－	2	1	－	－	1	－	1	－	－	－	－	－
	アルコールランプ	3	－	1	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	アルコールこんろ	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	蒸し器	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
	フライヤー	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
工業用・照明機器関連	小計	5	－	－	－	2	－	1	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－
	エンジンカッター	3	－	－	－	2	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
	発電機	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
	石油バーナ	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

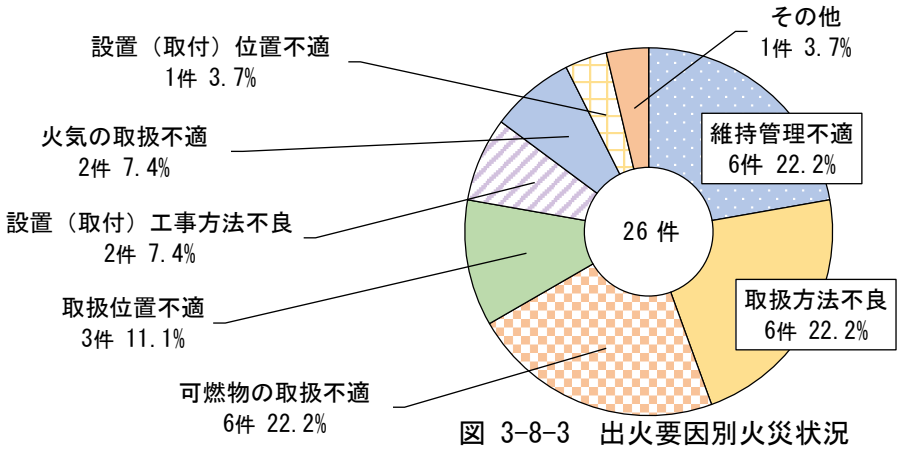


図 3-8-3　出火要因別火災状況

○　石油ストーブの火災は 11 件（40.7%）で前年（15 件）より 4 件減少しており、石油設備機器の火災の 4 割以上を占める。

○　出火要因別でみると、「維持管理不適」、「取扱方法不良」及び「可燃物の取扱不適」でそれぞれ 6 件（22.2%）発生し、合わせて石油設備機器の 7 割近くを占める。

９　その他の出火原因

○　花火による火災は７件で、玩具用花火で発生。
○　再燃による火災は５件で、最近 10 年で最少。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表 3-9-1 です。

表 3-9-1　その他の出火原因の火災状況

出火原因	火災種別									損害状況				
	合計	建物					林野	その他	車両	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
花火	7	－	－	－	－	－	－	7	－	－	－	1	－	4
雷	6	4	－	－	－	4	－	2	－	－	－	2,308	－	－
再燃	5	2	－	－	－	2	－	2	1	－	－	4	－	－
収れん	5	3	－	－	－	3	－	2	－	－	－	22	－	1

(1)　花火

抽出条件：①発火源分類コード　「71201 煙火」、「71202 花火」
②経過分類コード　「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火及び玩具花火の両方の火災をいいます。

○　火災件数は７件で、前年（６件）と比べて１件増加。
○　負傷者数は４人で、前年（２人）と比べて２人増加。

(2)　雷

抽出条件：経過分類コード　「841 落雷する」

○　火災件数は６件で、前年（26 件）と比べて 20 件減少。
○　直接雷*によるものが３件（50.0％）、間接雷*によるものが３件（50.0％）。
○　月別発生状況をみると、７月及び８月にそれぞれ２件発生している。

⑶　再燃

抽出条件：経過分類コード　「321 消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2　再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品		
		消したはずの炭	消したはずの木材・廃材	消したはずの繊維・製品
合計	5	2	2	1
直接水道の水をかけた	1	－	－	1
その他	4	2	2	－

○　火災件数は５件で、前年（７件）と比べて２件減少。
○　再燃前の火災の発火源をみると、「消したはずの炭」及び「消したはずの木材・廃材」によるものがそれぞれ２件(40.0%)発生し最多。

⑷　収れん

抽出条件：経過分類コード　「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが１点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が１点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

○　火災件数は５件で、前年（11 件）と比べて６件減少。
○　発火源をみると、凹面鏡が２件、凸レンズが３件。